

## 令和6年度 学校評価(総括評価表)

### 1. 学校教育目標

- (1)心身ともに健全で人間尊重と助け合いの精神に満ちた、社会に貢献できる人間の育成に努める。
- (2)勤労と学業の両立を図り、進んで諸問題を解決しようとする自主的・自発的な姿勢を持つ人間の育成を図る。
- (3)生徒と教師相互の温かい人間関係を深めるとともに、個別指導の一層の充実を図り、基礎学力の向上に努める。
- (4)家庭と学校との連携を密にし、規則正しい生活習慣の確立と就労の指導を推進し、望ましい生活態度の育成に努める。
- (5)命を大切にする教育を推進し、交通安全教育に努める。

### 2. 本年度の重点目標

- (1)基本的生活習慣の確立を図る生徒指導を充実する。
- (2)勤労と学業の両立を図り、社会で自立する能力や態度を育成する。
- (3)自他を大切にする心や態度を育成する。
- (4)防災・安全教育の徹底と環境教育を推進する。
- (5)主権者教育・消費者教育・情報教育を推進する。

徳島県立名西高等学校定時制課程

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
「基本的生活習慣の確立」	(全校レベル) I) 個人に応じた支援を実践し、生活習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	評価指標 I ) 授業出席率90%以上。 (R5 90.3%) 遅刻する生徒の割合5%以下。 (R5 4.3%) ①-1 進路指導における関連機関等と連携し、進路講演会等のキャリア教育行事を実施。 年間2回以上	評価基準による達成度 I ) 授業出席率92.6%。 遅刻する生徒の割合1.9%。 ①-1 キャリア教育行事を各学期に1回、計3回実施	総合評価 (評定) B	①生徒に寄り添った指導がなされている。 更に学校の魅力を打ち出す取組を行っていただきたい。	①欠席率、遅刻率とも目標値内である。登校時の状況把握で兆候をつかみ、家庭への連絡を密にするなどして、今後も欠席の防止を図る。
「社会で自立する能力や態度の育成」	(下位組織レベル) ① キャリア教育を推進する中で、生徒の進路意識を明確にし、学習能力・態度を高める。 〔進路課・生徒課〕 ② わかる授業を実践するとともに、個々の生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。〔教務課・進路課・各教科〕 ③ 始業前の時間を有効活用する。	①-2 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合60%以上。 (R5 55%) ②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を活用した授業の割合70%以上。 ②-2 授業評価、学校生活に関するアンケート等の結果を基におこなう学力検討会の実施回数。 年間5回以上 ②-3 教員相互の授業参観。 各学期に1回以上 ②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の向上。理解度80%以上、満足度90%以上。 (R5 理解度77.8% 満足度93.4%) ③ 「読書タイム」(始業前5分)を定期考查	①-2 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合。 70% ②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を活用した授業の割合89% ②-2 学力検討会の実施回数 年間5回 1学期2回、2学期2回、3学期1回 ②-3 教員相互の授業参観。 各学期に1回実施 ②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の向上。 理解度75.8% 満足度84.6% ③ 読書タイムに前向きに取り組めた。	(所見) 授業出席率は90%を超えていいる。 学校アンケートで「学校が楽しい」「楽しみな授業がある」「入学してよかったです」など70%以上の数値であり、この値が高出席率につながっていると考える。 同アンケートでは授業評価における満	②保護者にとって子どもの成長が実感でき、子どももが行きたい学校づくりをお願いしたい。 「学校が楽しい」「楽しみな授業がある」「入学してよかったです」など70%以上の数値であり、この値が高出席率につながっていると考える。	②生徒が将来どのような形で社会に貢献していくのか、具体的な未来像を創るために講演会やワークショップ形式の講座を開き、様々な立場の方の話を聞いたり、体験型の行事を行う。次年度も生徒の社会性向上を図るために、系統的なキャリア教育行事を推進するとともに、勤労観の育成に努める。

〔教務課・進路課〕	前に設定し、教室で読書に取り組む生徒の割合80%以上。(R5 82.1%)	33.3%	足度は90%を超える教科があるものの、理解度について50%の教科もある。このため、「学び直し」から高校の授業内容へつなぐ工夫については更に検討をする必要があると考える。少人数の強みを生かし、生徒がやる気を持って学習に臨める授業展開を実践することで理解度を高めたい。社会との接点が少なく、自分から積極的に動くことが多いことからアルバイトの推奨やエシカル教育を通しての体験を行っている。これらを通じて労働観や達成感を育て、自分の将来について主体的に考える姿勢を身につけさせたい。	③基礎学力の定着のために、テストの難易度を生徒の状況に合わせて設定し、生徒が達成感を得られるものとする。また、生徒の状況に合わせた検定等を紹介し、挑戦させる機会を作る。	
	活動計画	活動計画の実施状況			
	I) 生徒の実態について共通理解を図り、個に応じた支援を検討し、実践する。	I) 定期的にケース会議を行ったり、情報交換を密にし、生徒一人一人の理解に努めた。			
	①-1 生徒の進路実現に向けて、進路講演会等のキャリア教育行事を系統的に実施する。	①-1 進路講演会以外にも「エシカル教育行事」などを利用し、勤労観や労働意欲の醸成に取り組むキャリア教育内容の行事を実施することができた。			
	①-2 アルバイト等校外での活動を推奨し、社会性を身につけさせる。	①-2 アルバイト等校外での活動を推奨した結果70%の生徒がアルバイトに従事している。			
	②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器の積極的・効果的な活用を心掛け、主体的に対話的な授業を目指す。	②-1 授業において電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を、積極的に効果的に活用している。			
	②-2 学力検討会を実施し、生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。	②-2 学力向上に向けた検討会を年間を通して実施し、生徒の学力や意識調査の結果について共通理解を図るとともに、学習支援について相談することができた。			
	②-3 教員相互に授業参観を行い、他教科における生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。	②-3 活発な相互授業参観が行えず、他教科における生徒の理解度を十分に把握できなかった。			
	②-4 授業評価の結果を分析し、授業方法の改善やわかる授業の実践に役立てる。	②-4 学力向上アンケートや学校生活等の意識調査の結果を分析し、授業改善や生徒理解をすすめることができた。			
	③ 始業前の時間を利用し、生徒一人一人が落ち着いて授業に臨める環境作りを進め、授業を大切にする習慣を身に付けさせる。また、生徒が読書にいそしむ習慣作りに努め、図書館の利用促進をはかる。	③ 早めの登校での図書館の利用と、始業前に担任が教室に入り、生徒と一緒に読書をするなど、読書活動の推進に努めた。			
「自他を大切にする心や態度の育成」 「主権者意識や防	(全校レベル) I) 生徒の人間関係構築力や社会性の育成を図り、自他を守る社会規	評価指標 I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 (R5 85.7%)	評価基準による達成度 I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。	総合評価 (評定) 80%	①エシカル教育で生徒が活動している姿がよく分かった。生徒の生産した野菜を地 ①生徒の自己実現の達成に役立つ学校行事になるよう内容の改善に取り組む。また、挨拶を励行し、

災意識の高揚」	範を身に付けさせる。  (下位組織レベル)	① 学校行事への満足度80%以上。(R5 100%) エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度 ・満足度の向上80%以上。  (R5 理解度96.6%満足度96.6%)	① 学校行事への満足度。 92.3% エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上。  理解度90%、満足度93.3%	B  (所見)	元企業とのコラボで 売り出すなど、広報 に力を入れていただき たい。	学校行事においても礼法 指導を徹底する。  ②日々の関わりから生徒の 情報収集を行い、必要に 応じて共通理解を図る。 研修等で学んだ情報は積 極的に周知するように努 め、指導に活かす。
		② 地域に貢献するボランティア活動の実施。 年間2回以上。  (R5 実施回数2回)	② 生徒会活動の一環として地域清掃活動 を5月に実施した。活動には声かけを した生徒会所属の生徒全員が参加し、 地域の清掃活動を実施することができ た。		②家庭ではできない体 験活動を行っている ことがよく分かった。 生徒の意見も取り入 れながらさらに魅力 あるものにしていた だきたい。	
③ 校外での活動を推奨 し、地域との繋がりを 感じさせる。  [各学年・特活課]	③ 生徒の状況についてケース会議など、共通 理解を図る機会の設定。	③ 毎日の連絡会で生徒の状況について情 報交換を行った。また、必要に応じて ケース会議を行い、職員間での共通理 解を図った。	③ 毎日の連絡会で生徒の状況について情 報交換を行った。また、必要に応じて ケース会議を行い、職員間での共通理 解を図った。	状態である。学校行 事への参加など学年 を超えた交流の場を 活用し、コミュニケーション力の向上に 努めた。	②ボランティア活動は 地域との接点が持て る活動なので、でき るだけ多くの機会を 作っていただきたい。 また、教員がすべて 行うのではなく、積 極的に地域との連携 を行っていただきた い。	③生徒が安心して学校生活 を送ることができる指 導体制と雰囲気作りに取り 組む。
		④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気作りを 行い、アンケート実施により現状把握を行 う。  (R5 いじめ0件)	④ 教員間の情報交換、連携を密に図り、 指導と雰囲気づくりに努め、認知した いじめについて解消することができた。 また、11月にはいじめ防止生徒委員会 の活動で、「よりよい学校づくり」につ いて話し合いとホームルーム活動を実施 した。  いじめ発生件数1件			
⑤ さまざまな人権問題 に対する意識を向上さ せる。  [各学年・人権教育課]	⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行 動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。	⑤ 人権意識が向上したと回答した生徒の 割合は、全体で86.7%であり昨年より 向上した。	⑤ 人権意識が向上したと回答した生徒の 割合は、全体で86.7%であり昨年より 向上した。	アンケート結果か らも、人間関係構築 力や社会性の伸長を 実感した生徒の割合 が年度当初より増え ている。本校生の実 態を踏まえると、日 々の授業は大切であ るが、魅力ある学校 行事の企画・運営も 重要である。外部講 師招聘授業や学年を 越えた生徒との交流	④模擬投票などの体験型行 事のみならず、自分も社 会の一人であり創り手で あるとの自覚を持たせ、 地域社会への関心を高め ることを通じて主権者意 識の醸成をはかりたい。 また、今後も社会の出来 事への関心を高めるため ICT 教材を積極的に活用 して授業を進めたい	
		⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。  (R5 3回)	⑥ 地震・火災を想定した避難訓練を年間 4回実施した。			
⑥ 防災教育を充実させ る。  [各学年・環境教育課]	⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの 関心が高まったと感じる生徒の割合。  80 %以上 (R5 79.3%)	⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの 関心が高まったと感じる生徒の割合。  76.7%	⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わり への関心が高まったと感じる生徒の割 合。	など、普段の授業と は違う活躍の場が与 えられることによつ て、生徒は様々な経 験を積み、さらなる 成長が見込まれる。	① エシカル教育行事、遠足、修学旅行、 予餞会でのボーリング大会などの魅力 来年以降も生徒の 人間関係構築力や社	
		活動計画	活動計画の実施状況			
⑦ 主権者意識を高める 教育を推進する。  [公民科・各教科]	I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を 図り、人間関係構築力や社会性の育成を目 指した指導を実践する。	I) 機会を捉えて生徒の特性や発達段階な どについて共通理解を図り、各場面で 個に応じた指導を実践することができ た。	① エシカル教育行事、遠足、修学旅行、 予餞会でのボーリング大会などの魅力 来年以降も生徒の 人間関係構築力や社			
		① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生 徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させ				

<p>る。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。</p>	<p>ある行事を計画し、実施することができた。</p> <p>② 生徒会活動の一環として前期に1回、地域の清掃活動を実施することができた。</p>	<p>会性の育成につながる取り組みを推し進めたい。</p>
<p>③ 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒について共通理解を図る機会を設けるとともに、SCの助言等を仰ぎながら、個に応じた指導が実践できるようにする。</p>	<p>③ 機会あるごとに共通理解を図る機会を設けた。保健調査等からの情報を提供すると共に、SCの助言を職員会議を通して共通理解を図り、今後について意見交換を行い、指導に活かした。また、1年生の授業における困りごと解消と学力向上のため特別支援教育課支援員制度を活用している。</p>	
<p>④ いじめに関するホームルーム活動を行い、アンケートを実施する。</p>	<p>④ 6月と2月に、学校生活における不安や人権問題などに関わるアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。</p>	
<p>⑤ 人権問題に関するホームルーム活動や講演会等の行事を系統的に行い、アンケートを実施する。</p>	<p>⑤ 人権ホームルーム活動や人権講演会、人権映画鑑賞会を系統的に行い、人権アンケートを講演会後に実施し、生徒の人権意識を把握した。</p>	
<p>⑥ 停電時を想定した訓練など、夜間定時における効果的な防災訓練や避難訓練を実施する。</p>	<p>⑥ 停電時を想定し、安全を配慮した上で照明を消した状態で避難訓練を実施した。</p>	
<p>⑦ 公民科を中心として各教科の授業や学校行事で主権者教育を実施する。</p>	<p>⑦ 今年度は主権者行事は実施しなかったが、各教科・学校行事の指導を通して主権者意識の醸成をはかった。</p>	